

対象学科		声優科		科目名		演技					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		—		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み									
学習目標 (到達目標)		台本を読み、場においての動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1・2		舞台演劇基礎1 立ち姿勢					トレーニングの重要性と素立ち 発声の仕方				
3・4		舞台演劇基礎2 反応と表現					目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識				
5・6		舞台演劇基礎3 台詞について					言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方				
7・8		舞台演劇基礎4 芝居の空間					場面、設定の理解と人物の行動理解				
9・10		舞台演劇基礎5 相手役を考える					自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。				
11・12		舞台演劇基礎6 会話劇					二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。				
13・14		舞台演劇基礎7 客席との距離					見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について				
15・16		舞台演劇基礎8 ミザンス					立ち位置の取り方について シーンでの見せ方				
17・18		演技発表1					一人5分程度の演技発表会				
19・20		演技実習1 姿勢や発声で必要な体について					基本的なトレーニングのおさらい				
21・22		演技実習2 反射と影響					台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。				
23・24		演技実習3 伝え方の工夫					声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。				
25・26		演技実習4 台詞のキャッチボール					二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式(エア)で行ってみる。				
27・28		演技実習5 台本を理解し、物語のテーマを考える					演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感じとり、表現してみる。				
29・30		演技実習6 集団表現					舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人による台詞のタイミングを考えてみる。				
31・32		演技実習7 自然な演技					オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの無い状態での集団表現				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動10年以上									

対象学科		声優科		科目名	演技	
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無	○
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)		現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	俳優演技の基礎1 体の使い方			トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
3・4	俳優演技の基礎2 表情を鍛える			日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
5・6	俳優演技の基礎3 呼吸法に対する意識			気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
7・8	俳優演技の基礎4 シチュエーション			場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
9・10	俳優演技の基礎5 感情表現について			感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
11・12	俳優演技の基礎6 喜怒哀楽と老若男女			感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
13・14	俳優演技の基礎7 アンサンブル稽古			集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
15・16	俳優演技の基礎8 コロス			集団演技について		
17・18	演技発表1			コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
19・20	演技実習1 姿勢や発声で必要な体について			基本的なトレーニングのおさらい		
21・22	演技実習2 反射と影響			台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
23・24	演技実習3 インプロ1			反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
25・26	演技実習4 インプロ2			シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
27・28	演技実習5 エチュード1			場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
29・30	演技実習6 エチュード2			前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
31・32	演技実習7 エチュード3			エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動10年以上				

対象学科		声優科	科目名	滑舌		
担当教員		岡田 花菜子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明			日本語発音アクセント辞典の使い方確認		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化			実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化			実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音			実習		
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音			実習		
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売			実習。外郎売のアクセント、読み方確認。		
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売			実習。外郎売練習。復習必須。		
9	テスト			実技テスト		
10	発声 外郎売			実習。外郎売チェック。		
11	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
12	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
13	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
14	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
15	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
16	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

対象学科		声優科		科目名		滑舌					
担当教員		岡田 花菜子			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		—		時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。									
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社「魅せる声」の作り方									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		発声 滑舌練習					1年次の振り返り。復習練習。				
2		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。				
3		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。				
4		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					前回までの復習と再修正。				
5		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。				
6		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。				
7		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。				
8		腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					テスト課題練習。				
9		テスト					実技テスト				
10		基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく読む練習。				
11		基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。				
12		基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。				
13		基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。				
14		基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。				
15		基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。ブレス調節。				
16		基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。				
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	アニソン論	
担当教員		石田 耀子		実務授業の有無	○
対象コース		オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. アニソンとは何？ 2. アニソンの歴史 3. アニメーション作品とアニソンの関係			
学習目標 (到達目標)		アニソンを通じてアニメーション業界の視野を広げる。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	60年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
3・4					
5・6	70年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
7・8					
9・10	80年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
11・12					
13・14	90年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
15・16					
17・18	2000年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
19・20					
21・22	2010年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
23・24					
25・26	2020年代アニソン(放送アニメの歴史・当時のアニソン概要など)			プリント共有(資料郵送)	
27・28					
29・30	アニソンに関する様々なイベント・コンサートについて			プリント共有(資料郵送)	
31・32					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
出席率50% 学習意欲10% 年代ごとの小レポート提出40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				とにかく楽しんでアニソンを学んで下さい。	
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科		科目名		アニソン論					
担当教員		石田 耀子			実務授業の有無		○				
対象コース		オンライン声優コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		—		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. アニソンとは何？ 2. アニソンの歴史 3. アニメーション作品とアニソンの関係									
学習目標 (到達目標)		アニソンを通じてアニメーション業界の視野を広げる。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		プリント配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1・2		60年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
3・4											
5・6		70年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
7・8											
9・10		80年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
11・12											
13・14		90年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
15・16											
17・18		2000年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
19・20											
21・22		2010年代アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
23・24											
25・26		最新アニソン(アニソンシンガーについて、映像視聴)					プリント共有(資料郵送)				
27・28											
29・30		これからのアニメとアニソン					プリント共有(資料郵送)				
31・32											
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
出席率50% 学習意欲10% 年代ごとの小レポート提出40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。							とにかく楽しんでアニソンを学んで下さい。				
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー									

対象学科		声優科	科目名	アニソン		
担当教員		石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー&リポーターコース 声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 声量を上げる 2. やる気みなぎる表情ができる 3. 発声基礎がしっかりできる				
学習目標 (到達目標)		覇気ある人間になる。 人に感じてもらえる歌唱。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	自己紹介、発声基礎			ステージ・マイク使用法		
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック			keyチェック		
5・6	自由曲 1コーラス			人に向かって歌う		
7・8	自由曲 2コーラス			指摘された所が直せる		
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ			指摘された所が直せる		
11・12	自由曲 発表			ステージ上で発表形式		
13・14	課題曲① 盛り上がるアニメソング			歌入れ		
15・16	課題曲② 盛り上がるアニメソング			1人ずつ歌唱		
17・18	課題曲③ 盛り上がるアニメソング 発表			ステージ上で発表形式		
19・20	課題曲① 懐かしのアニメソング			歌入れ		
21・22	課題曲② 懐かしのアニメソング			1人ずつ歌唱		
23・24	課題曲③ 懐かしのアニメソング			1人ずつ歌唱		
25・26	課題曲④ 懐かしのアニメソング 発表			ステージ上で発表形式		
27・28	オーディション曲①			オーディション用選曲＆歌唱		
29・30	オーディション曲②			1人ずつ歌唱		
31・32	オーディション曲③			1人ずつ歌唱		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				一生懸命であるか、羞恥心がないか		
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー				

対象学科		声優科	科目名	アニソン		
担当教員		石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー&リポーターコース 声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基礎発声を正確に 2. 自由曲（個性を伸ばす） 3. 課題曲（求められた事ができる）				
学習目標 （到達目標）		自分の声を知り、個性として自信を持って歌える事。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	自己紹介、発声基礎			ステージ・マイク使用法		
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック			滑舌、表現力		
5・6	自由曲 2コーラス			指摘された所が直せる		
7・8	自由曲 2コーラス フルコーラス			指摘された所が直せる		
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ			曲構成を考える		
11・12	自由曲 発表			ステージ上で発表形式		
13・14	課題曲① 懐かしのアニメソング			歌入れ		
15・16	課題曲② 懐かしのアニメソング			1人ずつ歌唱		
17・18	課題曲③ 懐かしのアニメソング 発表			ステージ上で発表形式		
19・20	セリフのある曲①			歌入れ		
21・22	セリフのある曲②			1人ずつ歌唱		
23・24	セリフのある曲③			1人ずつ歌唱		
25・26	セリフのある曲④			ステージ上で発表形式		
27・28	オーディション曲①			オーディション用選曲＆歌唱		
29・30	オーディション曲②			1人ずつ歌唱		
31・32	オーディション曲③			1人ずつ歌唱		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。		
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	アナウンス	
担当教員		岡田 花菜子		実務授業の有無	○
対象コース		アナウンサー＆リポーターコース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数 32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 放送の基本 2. レポーターに関する基本的テクニック 3. アナウンスメントに関する基本的テクニック			
学習目標 (到達目標)		アナウンスメントの基本を身に付ける			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		アクセント辞典・プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	放送の仕組み(番組制作について)			プリント共有	
3・4					
5・6	ナレーション実技(映像に合わせて原稿を読む)			プリント共有	
7・8					
9・10	ナレーション実践(読むスピードや抑揚に注意)			映像に合わせてナレーションを読む	
11・12					
13・14	レポーター実技(現場での臨場感をどう伝えるか?)			プリント共有	
15・16					
17・18	レポート実践(ブッキングしたお店をレポート)			校外学習	
19・20					
21・22	アナウンサー実技(原稿を読む、事件事故、天気など)			プリント共有	
23・24					
25・26	アナウンサー実践(原稿をどう読むか)			スタジオにて実施	
27・28					
29・30	フリートーク実技			各自、5分のフリートークを実施	
31・32					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実践での評価50% 学習意欲10% 小レポート提出40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業前に一通り発声を終えて下さい。	
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む			

対象学科		声優科	科目名	アナウンス		
担当教員		岡田 花菜子		実務授業の有無	○	
対象コース		アナウンサー&リポーターコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 実践的アナウンス(スタジオ) 2. ニュース原稿、フリートーク 3. インタビューについて				
学習目標 (到達目標)		アナウンサーとしての技術向上を目的とする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		アクセント辞典・プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	番組制作(情報番組MC)			映像系と合同で架空の情報番組を制作、アナウンサーとして授業に参加する。		
3・4						
5・6	番組制作(歌唱番組MC)			いかに番組時間内に進行出来るかをチェック		
7・8						
9・10	番組制作(バラエティー番組MC)			バラエティーの雰囲気を作り上げるかをチェック		
11・12						
13・14	番組制作(報道番組MC)			知的かつ嘘のない芯の通ったアナウンスが出来ているかをチェック		
15・16						
17・18	インタビュー①			相手から視聴者受けする情報を引き出せるかをチェック		
19・20						
21・22	インタビュー②			相手から視聴者受けする情報を引き出せるかをチェック		
23・24						
25・26	ラジオパーソナリティー①			フリートークのみで番組を成立出来るかをチェック		
27・28						
29・30	ラジオパーソナリティー②			フリートークのみで番組を成立出来るかをチェック		
31・32						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
各授業での評価80% 学習意欲10% 事前準備10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業前に一通り発声を終えて下さい。		
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

対象学科		声優科	科目名	朗読		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。				
学習目標 (到達目標)		1. 人(心)に伝わる音量で語ることができる。 2. キャラクターの心情に応じたセリフを表現することができる。 3. 物語やキャラクターの状況や心情に応じた語り表現ができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	童話1			初見読みチェック。漢字・内容確認。児童に伝わる語りについて学ぶ。		
3・4	童話2			キャラクターの心情について確認。喜怒哀楽を活かした表現を学ぶ。		
5・6	童話3			距離感、間の取り方などの表現を学ぶ。		
7・8	童話4			グループ発表。振り返りチェック。		
9・10	民話1			初見読みチェック。漢字・内容確認。		
11・12	民話2			強弱緩急高低を活かした表現を学ぶ。		
13・14	民話3			切迫した状況などの表現を学ぶ。		
15・16	民話4			グループ発表。振り返りチェック。		
17・18	日本文学1			作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
19・20	日本文学2			作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
21・22	日本文学3			作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
23・24	日本文学4			作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ仮発表の撮影。語り癖の確認と修正。		
25・26	日本文学5			作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ発表。		
27・28	ボイスドラマ1			初見読みチェック。キャラクターの状況・心情を活かしつつセリフを表現する力を強化。		
29・30	ボイスドラマ2			立ち稽古によりキャラクターの音声表現確認。		
31・32	ボイスドラマ3			動きのある読みを習得。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。				発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身もイ メージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

対象学科		声優科	科目名	朗読		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。				
学習目標 (到達目標)		1. 人(心)に伝わる音量で語ることができる。 2. キャラクターの心情に応じたセリフを表現することができる。 3. 物語やキャラクターの状況や心情に応じた語り表現ができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	日本文学1			作家太宰治の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
3・4	日本文学2			作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
5・6	日本文学3			作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
7・8	日本文学4			作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
9・10	日本文学5			作家太宰治の短編小説の朗読。 語り癖の確認と修正。		
11・12	日本文学6			グループ発表。		
13・14	現代小説1			現代の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
15・16	現代小説2			現代の短編小説の朗読練習。		
17・18	現代小説3			現代の短編小説の朗読練習。		
19・20	現代小説4			現代の短編小説の朗読練習。		
21・22	現代小説5			現代の短編小説の朗読練習。		
23・24	現代小説6			グループ発表。		
25・26	海外小説1			海外の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
27・28	海外小説2			海外の短編小説の朗読練習。		
29・30	海外小説3			海外の短編小説の朗読練習。		
31・32	海外小説4			海外の短編小説の朗読練習。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身もイメージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	パフォーマンス		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象コース		オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. パフォーマンス公演の実施。 2. 発表により、表現力を育成する。				
学習目標 (到達目標)		1. 人前で演じる力を身につける。 2. 計画・実行する力を養う。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	公演実施について			パフォーマンスについての意義を説明。公演内容説明。		
2	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
3	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
4	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
5	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
6	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
7	台本練習			ボイスドラマ台本の練習		
8	場当たり・リハーサル			場当たりおよびリハーサル。		
9	ゲネプロ・本番			ゲネプロおよび本番。		
10	ダンス指導(1H)・歌唱指導(1H)			ダンスと歌唱、それぞれの練習。		
11	ダンス指導(1H)・歌唱指導(1H)			ダンスと歌唱、それぞれの練習。		
12	ダンスと歌唱 複合練習。			ダンスと歌唱を合わせたの練習。		
13	ダンスと歌唱 複合練習。			ダンスと歌唱を合わせたの練習。		
14	ダンスと歌唱 複合練習。			ダンスと歌唱を合わせたの練習。		
15	ダンスと歌唱 複合練習。			ダンスと歌唱を合わせたの練習。		
16	リハーサル・本番			リハーサルおよび本番。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				目標に向けて、仲間と協力し、やり遂げることが重要である。 人前で演じることの楽しさを実感してもらう。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動10年以上。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	パフォーマンス		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象コース		オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. パフォーマンス公演の実施。 2. 発表により、表現力を育成する。				
学習目標 (到達目標)		1. 人前で演じる力を身につける。 2. 計画・実行する力を養う。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	公演実施について			パフォーマンスについての説明。公演内容について企画例を提示。		
2	公演企画			パフォーマンスに関する企画案を出し合う。		
3	公演企画			パフォーマンスに関する企画案を検討。		
4	台本作成			台本概要を検討させる。		
5	台本作成			具体的プロットの検討・作成。		
6	台本作成			具体的プロットの検討・作成。台詞化。		
7	台本作成			台本の完成。		
8	稽古			公演に向けての稽古。		
9	稽古			公演に向けての稽古。		
10	稽古			公演に向けての稽古。		
11	稽古			公演に向けての稽古。		
12	稽古			公演に向けての稽古。		
13	稽古			公演に向けての稽古。		
14	通し稽古			公演に向けての稽古。		
15	リハーサル			場当たりおよびリハーサル。		
16	ゲネプロ・本番			ゲネプロおよび本番。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				演目の企画から本番まで、学生の力で遂行させる。 講師はフォローしつつ、各自が成長できるよう助言、チャレンジさせる。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動10年以上。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	発声法	
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象コース		オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい腹式呼吸を身につける。 2. 声帯の強化。 3. 正しい発声の仕方を理論的に指導。習得させる。			
学習目標 (到達目標)		声優・ナレーターとしての発声法を身につける。。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講談社 「魅せる声」の作り方 など			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸・胸式呼吸・肩式呼吸についての説明			テキストに準じた説明	
2	腹式呼吸・胸式呼吸・肩式呼吸を実践的に研究			実習	
3	練習文による腹式呼吸の練習			実習	
4	練習文による腹式呼吸の練習			実習	
5	練習文による腹式呼吸の練習			実習	
6	練習文による腹式呼吸の練習			実習	
7	ロングトーンの練習			実習	
8	ロングトーンの練習			実習	
9	テスト			実技テスト	
10	声帯についての説明			テキストに準じた説明	
11	声帯トレーニング			実習	
12	声帯トレーニング			実習	
13	声帯強化			実習	
14	声帯強化			実習	
15	課題文による声帯訓練			実習	
16	テスト			実技テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				声優・ナレーターの基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのために、特に復習が重要である。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	発声法		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 呼吸を持続させ、長文や長台詞を語る力を身につける。 2. 外郎売を用いたトレーニング。				
学習目標 (到達目標)		声優・ナレーターとしての発声法を身につける。。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		「外郎売」など				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	腹式呼吸・声帯トレーニング確認			1年次の振り返り 復習練習		
2	腹式呼吸・声帯トレーニング確認			1年次の振り返り 復習練習		
3	外郎売について			「外郎売」についての説明と読み仮名確認		
4	外郎売の練習			4分の1パート練習		
5	外郎売の練習			4分の1パート練習		
6	外郎売の練習			4分の1パート練習		
7	外郎売の練習			4分の1パート練習		
8	外郎売 暗唱			「外郎売」全てを暗唱する		
9	外郎売 暗唱			「外郎売」全てを暗唱する		
10	テスト			「外郎売」テスト		
11	長文音読練習			呼吸を持続しながら読む練習		
12	長文音読練習			呼吸を持続しながら読む練習		
13	長文音読練習			呼吸を持続しながら読む練習		
14	課題文練習			テストのための長文音読練習		
15	課題文練習			テストのための長文音読練習		
16	テスト			実技テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				声優・ナレーターの基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

対象学科		声優科	科目名	ダンス		
担当教員		MIE（中野 美恵）		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース 声優アーティストコース アニメソングボーカル＆ヴォーカリストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢、舞台で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 （到達目標）		1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ			基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。		
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へと行う。		
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			アイソレーション。リズムをとりながらステップ。		
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			ステップ、ボディコントロールできるための練習。		
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			ビッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。		
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			グループ練習。動きの確認。		
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			グループ練習。動きの確認。		
9	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			前期の復習		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。		
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。		
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
16	テスト			総まとめ		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴		HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

対象学科		声優科	科目名	ダンス		
担当教員		MIE(中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース 声優アーティストコース アニメソングボーカル＆ヴォーカリストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 (到達目標)		1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			前期の復習。		
10	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	課題発表			グループ発表。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴		HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

対象学科		声優科	科目名		取材	
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース		アナウンサー・リポーターコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 番組出演などの際に行う事前準備(情報収集) 2. 効果的インタビューの方法 3. 正確、かつ迅速に情報を伝えることが出来るか				
学習目標 (到達目標)		無礼のない取材交渉やインタビューからより良い情報を提供する技術を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社「魅せる声」のつくり方 プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	取材とは？(5W1Hを集める作業)			プリント配布		
2	敬語について			プリント配布		
3	取材先へのアポイントメント			プリント配布		
4	メモをとる(話していることの要点を素早き書く)					
5	原稿にする(聞いたことを原稿にまとめる)					
6	①場所に関する取材(様々な状況による取材)					
7	②人物に関する取材(様々な状況による取材)					
8	③出来事に関する取材(様々な状況による取材)					
9	①で取材したことを原稿にまとめる			指定された尺に合わせること		
10	②で取材したことを原稿にまとめる			指定された尺に合わせること		
11	③で取材したことを原稿にまとめる			指定された尺に合わせること		
12	番組制作授業にて取材した原稿を実際に使用する			「番組制作」「アナウンス」授業との合同		
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
合同授業での出来60%、原稿提出30%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		映像制作業界経歴10年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	取材	
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○
対象コース		アナウンサー・リポーターコース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数 16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。			
学習目標 (到達目標)		無礼のない取材交渉やインタビューからより良い情報を提供する技術を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社「魅せる声」のつくり方 プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	実際のお店を取材			要:事前アポイントメント	
2					
3					
4	人物(新潟で活躍する芸人・アーティストなど)を取材			要:事前アポイントメント	
5					
6					
7	出来事(運動会など)を取材			要:事前アポイントメント	
8					
9					
10	合同授業用の原稿制作				
11					
12	↓ 番組制作授業にて取材した原稿を実際に使用する			「番組制作」「アナウンス」授業との合同	
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
合同授業での出来60%、原稿提出30%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。	
実務経験教員の経歴		映像制作業界経歴10年			

対象学科		声優科	科目名	声楽		
担当教員		西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース Vtuberコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)		1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説			歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音			歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ			1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
10	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	テスト			ミュージカル楽曲Aテスト。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴		声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

対象学科		声優科	科目名	声楽	
担当教員		西潟 明美		実務授業の有無	○
対象コース		声優コース Vtuberコース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。			
学習目標 (到達目標)		1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。	
2	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。	
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。	
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。	
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。	
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。	
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。	
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。	
9	身体レッスンとチェック コンコーネ			歌唱と目について確認。コンコーネNo.8 No9	
10	体勢チェック コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.10 練習。	
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo20 No21、コンコーネNo.10 練習。	
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo21b/e、コンコーネNo.11 練習。	
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。	
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。	
15	発声 ミュージカル楽曲			ミュージカル楽曲C練習。	
16	テスト			ミュージカル楽曲Cテスト。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。	
実務経験教員の経歴		声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ			

対象学科		声優科	科目名	ファシリテーション		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語(丁寧語・謙譲語・尊敬語)を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 (到達目標)		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」(問題集含む)				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力			P15～P17 目的を意識する		
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎1			P36～P39 来客応対		
9	実践基礎2			P40～P43 電話応対		
10	実践基礎3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎4			P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎5			P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用1			P60～P65 接客・営業		
14	実践応用2			P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用4			P78～P83 面接		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定指導歴16年以上				

対象学科		声優科	科目名	アフレコ		
担当教員		松本さち		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演じ方などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。				
学習目標 (到達目標)		1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2・3	自己紹介 発声 滑舌			オーディション必須の自己紹介から開始。発声・滑舌練習の初歩的指導。		
4・5・6	発声 滑舌 距離感			台本による距離感の指導。		
7・8・9	言葉と表現			1つのワードで様々な表現練習。		
10・11・12	台詞と状況			台本の台詞から状況をくみ取りながら話す。相手に合わせて台詞を伝える。		
13・14・15	台詞と掛け合い			二人ずつの台詞の掛け合いと自分の感情の変化。		
16・17・18	ドラマCD			台本の読み方、キャラクターの演じ方を確認しつつ練習。		
19・20・21	ドラマCD			マイクワークを加えての練習。		
22・23・24	ドラマCD			リハーサル。		
25・26・27	ドラマCD			収録。		
28・29・30	アニメアフレコA			台本の見方確認。練習。		
31・32・33	アニメアフレコA			キャラクターの動きや表情を確認して演じる。		
34・35・36	アニメアフレコA			マイクワークを加えての練習。		
37・38・39	外画アニメアフレコB			Vチェック。外画作品の収録の違いを説明。練習。		
40・41・42	外画アニメアフレコB			原音を聞きながら練習。		
43・44・45	外画アニメアフレコB			役決め。原音を聞きながら練習。		
46・47・48	外画アニメアフレコB			最終練習。(テスト)		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				声優としての基礎力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴		プロダクション所属の現役声優による授業				

対象学科		声優科		科目名		アフレコ			
担当教員		松本さち			実務授業の有無		○		
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース 声優アーティストコース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		—		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演じ方などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。							
学習目標 (到達目標)		1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。							
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1・2・3	アニメアフレコC				キャラクターの動きや表情を確認して演じる。				
4・5・6	アニメアフレコC				マイクワークを加えての練習。				
7・8・9	アニメアフレコC				マイクワークを加えての練習。				
10・11・12	アニメアフレコC				最終練習。(テスト)				
13・14・15	ボイスドラマA				キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。				
16・17・18	ボイスドラマA				マイクワークを加えての練習。				
19・20・21	ボイスドラマA				リハーサル。				
22・23・24	ボイスドラマA				最終練習。(テスト)				
25・26・27	外画吹替え実習				映像と台本のチェック。				
28・29・30	外画吹替え実習				吹替え練習				
31・32・33	外画吹替え実習				吹替え練習				
34・35・36	外画吹替え実習				最終練習。(テスト)				
37・38・39	ボイスドラマB				キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。				
40・41・42	ボイスドラマB				マイクワークを加えての練習。				
43・44・45	ボイスドラマB				リハーサル。				
46・47・48	ボイスドラマB				最終練習。(テスト)				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					声優としての基礎力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。				
実務経験教員の経歴		プロダクション所属の現役声優による授業							

対象学科		声優科	科目名	PC&Webリテラシー		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識				
学習目標 (到達目標)		PC, SNSに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	情報リテラシー			情報を正しく選択し解釈する		
3・4	情報リテラシー			情報を正しく選択し解釈する		
5・6	情報リテラシー			ネット使用の注意点		
7・8	情報リテラシー			ネット使用の注意点		
9・10	ソフト(Word)			文章作成		
11・12	ソフト(Word)			文章作成		
13・14	ソフト(Word)			文章作成		
15・16	ソフト(Word)			文章作成		
17・18	ソフト(Word)			文章作成		
19・20	ソフト(Word)			文章作成		
21・22	ソフト(Word)			文章作成		
23・24	ソフト(Word)			文章作成		
25・26	ソフト(Word)			文章作成		
27・28	ソフト(Word)			文章作成		
29・30	ソフト(Word)			文章作成		
31・32	ソフト(Word)			文章作成		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				PC操作に慣れながら、知識・技術を習得。		
実務経験教員の経歴						

対象学科		声優科	科目名	PC&Webリテラシー		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識				
学習目標 (到達目標)		PC, SNSに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	情報リテラシー			情報を正しく選択し解釈する。復習。		
3・4	情報リテラシー			ネット使用の注意点。復習。		
5・6	ソフト(Excel)			表計算		
7・8	ソフト(Excel)			表計算		
9・10	ソフト(Excel)			表計算		
11・12	ソフト(Excel)			表計算		
13・14	ソフト(Excel)			表計算		
15・16	ソフト(Excel)			表計算		
17・18	ソフト(Excel)			表計算		
19・20	ソフト(Excel)			表計算		
21・22	ソフト(Excel)			表計算		
23・24	ソフト(Excel)			表計算		
25・26	ソフト(PowerPoint)			プレゼンテーション		
27・28	ソフト(PowerPoint)			プレゼンテーション		
29・30	ソフト(PowerPoint)			プレゼンテーション		
31・32	ソフト(PowerPoint)			プレゼンテーション		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				PC操作に慣れながら、知識・技術を習得。		
実務経験教員の経歴						

対象学科		声優科	科目名	業界研究・就職指導		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. オーディション対策(面接・書類)を行う。 2. オーディション受験のための実技対策を行う。 3. プロダクションや養成所など、声優業界に関する知識習得 4. 声優志望者に対する進路指導				
学習目標 (到達目標)		1. オーディション面接の際の自己アピール力の強化。 2. オーディション用紙の書き方の習得。 3. 滑舌や台詞などの実技強化。 4. 声優業界に対する認識を深める。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	声優になるための心構え 実技課題			自身の状況把握と今後のスケジュールを制作。オーディション実技課題(滑舌)にて自身の 実力確認。		
3・4	実技課題 プレゼンテーション			オーディション課題(滑舌・台詞)を練習 プレゼンテーションについて説明		
5・6	実技課題 プレゼンテーション			オーディション課題(滑舌・ナレーション)を練習 プレゼンテーション課題発表		
7・8	オーディション対策			面接の形式など指導。自己PRポイントの確認 自己PR練習		
9・10	オーディション対策			1分間自己PR発表		
11・12	オーディション対策			オーディション用紙の書き方指導		
13・14	オーディション対策			オーディション用紙の書き方指導 質疑応答		
15・16	養成所・プロダクション研究			養成所・プロダクション説明会		
17・18	テスト			面接形式によるテスト		
19・20	養成所・プロダクション研究			養成所・プロダクション説明会		
21・22	養成所・プロダクション研究			養成所・プロダクション説明会		
23・24	進学指導			進学における相談と指導		
25・26	養成所・プロダクション研究			養成所・プロダクション説明会		
27・28	養成所・プロダクション研究			養成所・プロダクション説明会		
29・30	オーディション対策			オーディション受験の総括指導		
31・32	テスト			面接形式によるテスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験30%、学習意欲30%、提出物20%、実技20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				声優として将来に向かうために必要な知識を習得し、各々の目標 を明確にする。また、それにより、各自の計画を立て、実力向上を 目指す。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

対象学科		声優科	科目名	社会人常識マナー検定		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)		1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1			社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2			組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織			目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1			社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2			社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い			人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書			ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー			組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験			テストと解説。		
10	電話対応			電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務			慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送			受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算			ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本			都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①			過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②			過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	動画制作配信	
担当教員		菅家 将次		実務授業の有無	○
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 配信に関する知識 2. パソコンでの製作に関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識			
学習目標 (到達目標)		PC, SNSに関する基礎知識 プレゼンテーション動画を制作し、配信			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		PC・iPadなど			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	情報リテラシー			ネット使用の注意点	
3・4	Twitterについて			セルフプロモーション活用法	
5・6	Instagram			セルフプロモーション活用法	
7・8	Youtube			セルフプロモーション活用法	
9・10	Instagram			セルフプロモーション活用法	
11・12	撮影			画像	
13・14	撮影			画像	
15・16	Twitter配信			効果的配信とは	
17・18	Twitter配信			効果的配信とは	
19・20	撮影			動画	
21・22	撮影			動画	
23・24	Instagram			効果的配信とは	
25・26	Instagram			効果的配信とは	
27・28	Youtube			効果的配信とは	
29・30	Youtube			効果的配信とは	
31・32	Youtube			効果的配信とは	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトを確認。授業内で知識・ 技術を共有。	
実務経験教員の経歴		配信プロダクション代表			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	動画制作配信	
担当教員		菅 家 将次		実務授業の有無	○
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 配信に関する知識 2. パソコンでの製作に関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識			
学習目標 (到達目標)		PC, SNSに関する基礎知識 プレゼンテーション動画を制作し、配信			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		PC・iPadなど			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	フリーソフト紹介および使用方法①			画像・動画	
3・4	フリーソフト紹介および使用方法②			画像・動画	
5・6	フリーソフト紹介および使用方法③			画像・動画	
7・8	フリーソフト紹介および使用方法④			音楽・サウンド編集	
9・10	フリーソフト紹介および使用方法⑤			音楽・サウンド編集	
11・12	フリーソフト紹介および使用方法⑥			音楽・サウンド編集	
13・14	画像・イラストソフトについて①			illustrator・photoshop	
15・16	画像・イラストソフトについて②			illustrator・photoshop	
17・18	画像・イラストソフトについて③			illustrator・photoshop	
19・20	画像・イラストソフトについて④			illustrator・photoshop	
21・22	画像・イラストソフトについて⑤			illustrator・photoshop	
23・24	画像・イラストソフトについて⑥			illustrator・photoshop	
25・26	動画ソフトについて①			Final Cut Pro	
27・28	動画ソフトについて②			Final Cut Pro	
29・30	動画ソフトについて③			Final Cut Pro	
31・32	動画ソフトについて④			Final Cut Pro	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトを確認。授業内で知識・ 技術を共有。	
実務経験教員の経歴		配信プロダクション代表			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	司会・トーク		
担当教員		関根 美紀		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. コミュニケーション力を高める。 2. 視覚・聴覚から好感を持たれる心得を修得する。 3. 個々の発表を増やし、トーク力を高める。				
学習目標 (到達目標)		正しい言葉遣いで、好感の持てる話し方ができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	自己紹介			話し方、表情などチェック。		
2	社会で必要とされるコミュニケーション			コミュニケーションの重要性を確認。		
3	コミュニケーション目標の設定			個々の弱点と改善目標の発表。		
4	第一印象			第一印象の重要性と自己チェック。		
5	自己表現			テーマ別に発表。表現方法の違いを確認。		
6	集団の中での自己主張			グループディスカッションと発表。		
7	話し方			起承転結のある話し方を学ぶ。		
8	話し方			文法と話し方のコツを学ぶ。		
9	話し方			起承転結、話し方のコツを活かして発表。		
10	プレゼンテーション1			テーマに基づいた個人プレゼンテーション。		
11	プレゼンテーション1			テーマに基づいた個人プレゼンテーション。		
12	プレゼンテーション2			テーマに基づいたグループプレゼンテーション。		
13	プレゼンテーション2			テーマに基づいたグループプレゼンテーション。		
14	相互チェック			2・3人で話し方チェック。		
15	1分間トーク			テーマに基づき、時間を意識して話す。練習。		
16	1年間の振り返り 総合チェック			テーマに基づき、時間を意識して話す。発表。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)30%、企画力30%、学習意欲30%、アピール力20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				発声・滑舌などを意識しながらトークをさせる。 また、プレゼンテーション回数を多くすることによって、人前で話す ことに慣れさせる。		
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	司会・トーク		
担当教員		関根 美紀		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基礎的アナウンス力の徹底。 2. 司会現場に応じた言葉遣いと進行。 3. 実践力の育成。				
学習目標 (到達目標)		イベント及びブライダルの基本的な進行と台本作成。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	司会とは			司会の種類とそれぞれの心構えを説明。		
2	イベント司会			司会原稿読みの練習と発表。		
3	イベント司会			インタビュー練習と発表。		
4	イベント司会			イベント司会の組み立てと練習。(インタビュー含む)		
5	イベント司会			前回のイベント司会の発表。フィードバック。		
6	ラジオ番組進行			ラジオ公開生放送をイメージ。進行内容を考え、練習。		
7	ラジオ番組進行			前回のラジオ公開生放送練習の発表。フィードバック。		
8	講演会司会			講演会の司会進行練習。		
9	講演会司会			講演会の司会進行練習と発表。		
10	ブライダル司会			ブライダルについて、心構えや注意点など説明。		
11	ブライダル司会			新郎新婦プロフィール作成。言葉遣いの徹底。		
12	ブライダル司会			ブライダル進行台本の作成。		
13	ブライダル司会			ブライダル進行練習。		
14	ブライダル司会			ブライダル進行発表。		
15	パーティ司会			パーティ司会(ボジョレーヌーボーイベント)の練習。		
16	テストとまとめ			テストと振り返り。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)30%、企画力30%、学習意欲30%、アピール力20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				発声・滑舌などを意識しながらトークをさせる。 また、プレゼンテーション回数を多くすることによって、人前で話すことに慣れさせる。		
実務経験教員の経歴		アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

対象学科		声優科	科目名	i-MEDIAゼミ		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①			予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②					
5・6	スペシャルゲスト講師③					
7・8	スペシャルゲスト講師④					
9・10	スペシャルゲスト講師⑤					
11・12	スペシャルゲスト講師⑥					
13・14	スペシャルゲスト講師⑦					
15・16	スペシャルゲスト講師⑧					
17・18	スペシャルゲスト講師⑨					
19・20	スペシャルゲスト講師⑩					
21・22	スペシャルゲスト講師⑪					
23・24	スペシャルゲスト講師⑫					
25・26	スペシャルゲスト講師⑬					
27・28	スペシャルゲスト講師⑭					
29・30	スペシャルゲスト講師⑮					
31・32	スペシャルゲスト講師⑯					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業態度と出席簿で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式				

対象学科		声優科	科目名	i-MEDIAゼミ		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①			予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②					
5・6	スペシャルゲスト講師③					
7・8	スペシャルゲスト講師④					
9・10	スペシャルゲスト講師⑤					
11・12	スペシャルゲスト講師⑥					
13・14	スペシャルゲスト講師⑦					
15・16	スペシャルゲスト講師⑧					
17・18	スペシャルゲスト講師⑨					
19・20	スペシャルゲスト講師⑩					
21・22	スペシャルゲスト講師⑪					
23・24	スペシャルゲスト講師⑫					
25・26	スペシャルゲスト講師⑬					
27・28	スペシャルゲスト講師⑭					
29・30	スペシャルゲスト講師⑮					
31・32	スペシャルゲスト講師⑯					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業態度と出席簿で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	卒業進級制作	
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期 後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数 260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施			
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1~13	企画立案			どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)	
14~27	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め	
28~40	企画書作成			内容	
41~53	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他	
54~66	台本作成			資料収集	
67~79	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成	
80~92	台本作成			台本完成	
93~105	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
106~118	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
119~131	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
132~144	稽古期間			音響・照明プランニング	
145~157	稽古期間			音響・照明プランニング	
158~170	稽古期間			音響・照明プランニング	
171~183	稽古期間			音響・照明プランニング	
184~196	稽古期間			最終チェック	
197~209	リハーサル			会場入り(通し)	
210~222	リハーサル			会場入り(通し)	
223~236	リハーサル			会場入り(通し)	
237~249	ゲネラルプローベ				
250~260	本番			評価	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				進級評価の対象となります。	
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	卒業進級制作		
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	260時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1~13	企画立案			どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
14~27	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
28~40	企画書作成			内容		
41~53	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他		
54~66	台本作成			資料収集		
67~79	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成		
80~92	台本作成			台本完成		
93~105	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
106~118	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
119~131	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
132~144	稽古期間			音響・照明プランニング		
145~157	稽古期間			音響・照明プランニング		
158~170	稽古期間			音響・照明プランニング		
171~183	稽古期間			音響・照明プランニング		
184~196	稽古期間			最終チェック		
197~209	リハーサル			会場入り(通し)		
210~222	リハーサル			会場入り(通し)		
223~236	リハーサル			会場入り(通し)		
237~249	ゲネラルプローベ					
250~260	本番			評価		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	ボイスライブラリー制作		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 仕事として現場から求められるナレーター・声優とは何かを習得する。 2. 原稿や宣材資料の作成などにより、自己プロデュース力を育成する。 3. ナレーション収録を行うことにより、技術向上と経験を習得する。				
学習目標 (到達目標)		1. ナレーション技術の向上。2. 文章作成力の向上。3. 一人ナレーションにおけるマイクワークを習得する。 4. スタジオマナーの習得。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	求められる人材とボイスライブラリーの意義			ボイスライブラリーの意義について説明 実際のナレーション確認		
3・4	ナレーション課題練習1			ナレーション課題練習①「本来の声を活かす」		
5・6	ナレーション課題練習2			ナレーション課題練習②「キャラクターを活かす」 ナレーション原稿作成について説明		
7・8	原稿作成1			原稿作成について説明 ナレーション原稿作成スタート		
9・10	原稿作成2			ナレーション原稿制作 選曲について説明(BGM・SE探し開始)		
11・12	原稿チェックと選曲1			ナレーション原稿チェック 選曲チェック(候補曲確認)		
13・14	原稿チェックと選曲2			ナレーション原稿チェック 選曲チェック(候補曲確認)		
15・16	原稿チェックと選曲3			ナレーション原稿チェック 選曲チェック(候補曲確認)		
17・18	ナレーション原稿決定 プロフィール制作1			ナレーション原稿決定 宣材写真・衣装について説明		
19・20	収録用ナレーション練習1			収録用ナレーション練習1		
21・22	収録用ナレーション練習2 プロフィール制作2			収録用ナレーション練習2 宣材写真衣装チェック		
23・24	収録用ナレーション練習3			スタジオにてナレーション練習		
25・26	ナレーション仮収録			スタジオにてナレーション仮練習		
27・28	収録用ナレーション練習4 プロフィール制作3			仮収録における音声チェック プロフィール原稿作成について説明		
29	ナレーション本収録			ナレーション本収録		
30	宣材写真撮影			プロフィール宣材写真撮影		
31	プロフィール制作4			プロフィール自己アピール文作成		
32	プロフィール制作5			プロフィールデータの作成		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
ナレーション実技30%、原稿作成25%、収録25%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、収録に臨む。基礎ができていなければ現場には行けないということをしっかりと認識する。 自身の声を知り自身の声を活かし、また、現場が求めるナレーションとは何かを考察させる。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	声優実習		
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象コース		声優コース アナウンサー・リポーターコース オンライン声優コース	対象学年	2年生	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 声優に必要な演技力・演出力を身に付ける 2. 実践的な実習を行うことで現場対応力(初見力・アドリブ力)を身に付ける				
学習目標 (到達目標)		1. 演出家の指示を理解し正しく表現が出来る声優を目指す				
テキスト・教材・参考図 書・その他資料		講師作成テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	自己PRを作成(3分)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
2	自己PRを作成(5分)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
3	ナレーション作成(5分)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
4	ナレーション作成(5分)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
5	TVCM原稿作成(15秒)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
6	TVCM原稿作成(30秒)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
7	ラジオCM原稿作成(1分)			作成した原稿をマイクを使って読み上げる		
8	前期テスト			原稿を読む		
9	外国映画のアフレコ①			映像に合わせて台詞を読む		
10	外国映画のアフレコ②			映像に合わせて台詞を読む		
11	外国映画のアフレコ③			映像に合わせて台詞を読む		
12	アニメーションアフレコ①			映像に合わせて台詞を読む		
13	アニメーションアフレコ②			映像に合わせて台詞を読む		
14	アニメーションアフレコ③			映像に合わせて台詞を読む		
15	アニメーションアフレコ④			映像に合わせて台詞を読む		
16	後期テスト			台詞を言う		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
テスト60%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	ビジネス著作権		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト(ウイネット) ビジネス著作権検定初級問題集(サーティファイ)				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か			イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの			著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ			著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1			著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41		
5	著作権の内容 2			財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される			著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない			著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある			権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度			著作隣接権(実演家)(レコード製作者)(放送事業者・有線放送事業者)・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか			著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度			知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは			特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは			問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外			問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺			問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験(過去問題より重要部分を出題)			答え合わせおよび解説		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴		ビジネス著作権指導歴16年以上 MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優科	科目名	実践行動学	
担当教員		若狭 利之		実務授業の有無	○
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期 前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 15時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力(自主性・プラス思考・実行力など)の育成 3. Part1～Part3を毎回グループに分かれて実施			
学習目標 (到達目標)		将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	Part1 マジックドア1			夢と目標 P1～P7	
2	Part1 マジックドア2			誤った思い込みと言ひ訳 P8～P13	
3	Part1 マジックドア3			行動のよりどころと心構え P14～P22	
4	Part1 マジックドア4			まず第1歩を P23～P32	
5	Part1 マジックドア5			目標設定しよう P33～P38	
6	Part2 マジックドア1			プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4	
7	Part2 マジックドア2			考え方を換えれば行動が変わる P5～P11	
8	Part2 マジックドア3			あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19	
9	Part2 マジックドア4			あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27	
10	Part2 マジックドア5			目標が才能・可能性を開花させる P28～P32	
11	Part3 マジックドア1			入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4	
12	Part3 マジックドア2			働く自分をイメージしてみよう P5～P10	
13	Part3 マジックドア3			自分が最大限に生きる働き方とは P11～P15	
14	Part3 マジックドア4			将来を描いてみよう P16～P20	
15	Part3 マジックドア5			夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D 評価を不可とする。				講師はあくまでも授業の進行役(ファシリテーター)でしかありません。 ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有			

対象学科		声優科	科目名	専攻実習		
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案			どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
6～15	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成			内容		
26～35	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成			資料収集		
46～55	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成			台本完成		
66～75	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間			音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間			音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間			音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間			音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間			最終チェック		
146～152	リハーサル			会場入り(通し)		
153～159	リハーサル			会場入り(通し)		
160～166	リハーサル			会場入り(通し)		
167～174	ゲネラルプローベ					
175～182	本番			評価		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

対象学科		声優科	科目名	専攻実習		
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案			どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
6～15	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成			内容		
26～35	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成			資料収集		
46～55	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成			台本完成		
66～75	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間			音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間			音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間			音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間			音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間			最終チェック		
146～152	リハーサル			会場入り(通し)		
153～159	リハーサル			会場入り(通し)		
160～166	リハーサル			会場入り(通し)		
167～174	ゲネラルプローベ					
175～182	本番			評価		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		発声			
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
11	テスト			滑舌課題確認テスト	
12	外郎売			暗唱	
13	外郎売			暗唱	
14	外郎売			暗唱	
15	外郎売			暗唱	
16	テスト			外郎売テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		演技				
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)		自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		特になし。				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング1			イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング2			ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング3			ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング4			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング5			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
6	身体トレーニング6			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
7	身体トレーニング7			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
8	身体トレーニング8			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
9	身体トレーニング9			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
10	演技トレーニング1			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング2			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング3			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング4			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング5			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング6			ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト			テスト(身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能力)		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディションキープと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴				舞台演劇活動10年以上。		

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		歌唱				
担当教員		西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)		1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説			歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音			歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌			コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト			コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ			1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ			コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲			コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴		声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		演奏				
担当教員		富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)		初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明			ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け			各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる			経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習			各パートに分かれて課題曲練習		
5						
6						
7						
8	課題曲アンサンブルの練習			バンド形態で課題曲の練習		
9						
10	課題曲① 発表			ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習			各パートに分かれて課題曲練習		
12						
13						
14	課題曲アンサンブルの練習			バンド形態で課題曲の練習		
15						
16	課題曲② 発表			ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴				作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多		

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		声優				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)		1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師作成資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト			実技テスト		
10	発声・滑舌			発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌			発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練			長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練			長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練			長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練			長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練			長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴				演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む		

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像				
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 撮影・編集の基本的知識 3. スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)		スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明					
2	カメラ・編集機材の説明			使用方法		
3	撮影			撮影の基本的知識		
4	撮影			カメラワークについて		
5	撮影			サイズと照明効果		
6	撮影			10カット撮影してみよう		
7	編集			ソフトの選び方		
8	編集			カット編集の基本的知識(静止画)		
9	編集			カット編集の基本的知識(動画)		
10	編集			撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA			映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA			映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作					
14	作品制作					
15	1分間動画 作品発表 評論			スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画 作品発表 評論			スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴				新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務		

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	照明				
担当教員	新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	一	単位時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)	安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について		舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化		機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類		各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識		図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り		吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編		オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編		灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス(当たり合わせ)		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方		図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習(テスト)		前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい		休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ		演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン		音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出		演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材		演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ		照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ		照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		音響				
担当教員		株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ			ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習(作成および、録音、適切な選択方法)		
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習(作成および、録音、適切な選択方法)		
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習(アフレコ素材の整音)		
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習(アフレコ素材の整音)		
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習(アフレコ素材の整音)		
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作			
担当教員	大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)	学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ		イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ		イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ		公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ		企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ		演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ		いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ		様々な意見やジャンルからアイデアを集める		
8	イベント企画Ⅵ		アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ		仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう(提出)		
10	イベント企画Ⅷ		イベント論1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ		イベント論2 地域交流(イベント)		
12	イベント企画Ⅹ		イベント論3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ		出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ		出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ		スタッフ進行表について		
16	総括		実演目的の企画を立ててみる。(演目時間自由)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
実務経験教員の経歴			放送・音楽業界の現場に7年		

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		演出				
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生の実制作作品をチェックしながら具体的改善的を指導する。				
学習目標 (到達目標)		自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ			筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ			立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ			効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ			著名な演出家		
5	演出論Ⅱ			歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ			創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か			画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か			視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について			特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について			特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて			なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて			フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について			時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について			時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品(5分)制作			各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品(5分)の編集チェック			各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の良し悪しの指導を行う。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				編集チェックの作品は自身の作品であること。 また、作品の提出は何本でも可能である。		
実務経験教員の経歴				演劇業界にて実績あり。当校専任講師		